

# 業務状況説明書

(平成29年10月1日から平成30年3月31日まで)

富士見市下水道事業

## 1 平成29年度下半期の状況

### (1) 事業の概況

#### ア 業務

平成29年度末における水洗便所化人口は、105,187人で、前年度末に比べ1,294人の増加となっています。

1日平均処理水量は1,172 m<sup>3</sup>の増加、有収水量は127,158 m<sup>3</sup>の増加となっています。

年 度 区 分	平成29年度 (年度末)	平成28年度 (年度末)	比 較	
			増 減	増減率 (%)
水洗便所化人口 (人)	105,187	103,893	1,294	1.25
1日平均処理水量 (m <sup>3</sup> )	33,827	32,655	1,172	3.59
有 収 水 量 (m <sup>3</sup> )	10,388,612	10,261,454	127,158	1.24

#### イ 建設改良事業

公共下水道の汚水事業につきましては、柳瀬第9処理分区（大字水子地内）の管渠築造工事を実施しました。雨水事業につきましては、新河岸川第五排水区（別所雨水幹線）の築造工事を実施しました。特定環境保全公共下水道につきましては、新河岸第14処理分区（大字下南畑地内）、新河岸第12-2-2処理分区（大字上南畑地内、大字勝瀬地内）の管渠築造工事を実施しました。

なお、柳瀬第9汚水管渠築造工事（第2工区）、新河岸第12-2-1管渠更新工事（第1工区）、別所雨水幹線築造工事（第3工区）に伴う付帯工事（その2）につきましては、管布設に際し、私道所有者の承諾を得て実施する必要があったことやポンプ施設の製作納入に不測の日数を要したことなどから、平成30年度に繰越をいたしました。

(2) 経理の状況（税込）

下半期における経理の状況は、次のとおりです。

ア 収益的収入及び支出

(単位:千円)

科目	予算現額	執行額			執行率 (%)	
		上半期	下半期	計		
収入	事業収益	1,818,331	817,549	1,030,449	1,847,998	101.63
	営業収益	1,292,712	812,227	503,596	1,315,823	101.79
	営業外収益	525,618	1,837	526,852	528,689	100.58
	特別利益	1	3,485	0	3,485	348,545.30
支出	事業費	1,549,186	228,568	1,295,162	1,523,730	98.36
	営業費用	1,329,108	124,579	1,187,628	1,312,207	98.73
	営業外費用	219,038	103,972	106,378	210,350	96.03
	特別損失	540	16	1,158	1,174	217.35
	予備費	500	0	0	0	—

イ 資本的収入及び支出

(単位:千円)

科目	予算現額	執行額			執行率 (%)	
		上半期	下半期	計		
収入	資本的収入	1,084,992	184,924	649,092	834,016	76.87
	企業債	798,300	0	503,200	503,200	63.03
	国庫(県)補助金	88,000	0	135,310	135,310	153.76
	負担金	198,692	184,924	10,582	195,506	98.40
支出	資本的支出	1,778,939	642,644	867,410	1,510,054	84.89
	建設改良費	997,761	194,178	535,699	729,877	73.15
	企業債償還金	780,178	386,335	393,842	780,177	100.00
	予備費	1,000	0	0	0	—

## 2 平成30年度予算の概要

### (1) 予算編成概要

下水道事業を取り巻く環境は、人口増加の鈍化や生活様式の多様化、節水意識の定着やトイレなどの節水型機器の普及等により、長期的には主たる下水道事業収益の使用料収入の減少が懸念される状況です。

平成30年度の公共下水道汚水事業については、勝瀬地区の新設道路にあわせた管渠築造工事と水子地区の舗装本復旧工事等を実施するとともに南畑地区について引続き計画的に整備促進を図っています。

また、公共下水道雨水事業については、別所雨水ポンプ施設の計画的な更新事業を行うとともに別所雨水幹線について順次整備を図っています。

今後も市民生活の安心・安全のため、都市環境の改善を図り、都市の健全な発展と公衆衛生の向上や公共用水域の水質保全に資するため、計画的に整備を進めるとともに、維持管理に努め、経費の削減はもとより、健全で効率的な経営を推進するための予算を編成しました。

### (2) 業務の予定量

区 分 \ 年 度	平成 30 年度	平成 29 年度	増減
年間処理水量 (m <sup>3</sup> )	12,306,755	12,191,434	115,321
水洗化世帯戸数 (戸)	53,230	52,428	802
管渠布設距離 (m)	2,142	1,830	312

### (3) 予算規模

第3条予算（収益的収入及び支出）の収入は、前年度比0.75%減の18億462万1千円、支出は、前年度比0.33%減の15億4,405万6千円で、収支差引で2億6,056万5千円の黒字となっています。

第4条予算（資本的収入及び支出）の収入は、前年度比11.88%増の9億3,650万1千円、支出は、前年度比17.39%増の17億6,366万4千円となり、収支差引では8億2,716万3千円の赤字が見込まれますが、この赤字分については、損益勘定留保資金等で補てんするものとしております。

## (4) 収入支出明細書

## 収益的収入及び支出

## 収 入

(単位:千円)

款 項	目	予 定 額	備 考
下水道事業収益		1,804,621	
営業収益		1,272,003	
	下水道使用料	994,810	下水道使用料の予定額を計上
	他会計負担金	277,068	汚水及び雨水処理負担金等の予定額を計上
	その他の収益	125	下水道指定工事店指定手数料等の予定額を計上
営業外収益		532,617	
	受取利息	103	定期・預金利息の予定額を計上
	他会計補助金	210,000	一般会計からの補助金の予定額を計上
	長期前受金戻入	320,740	長期前受金の戻入予定額を計上
	雑収益	1,774	勝瀬原調整池及び桜井雨水幹線占用料等の予定額を計上
	消費税及び地方消費税還付金	0	
特別利益		1	
	過年度損益修正益	1	過年度損益修正益を計上

## 支 出

(単位:千円)

款 項	目	予 定 額	備 考
下水道事業費用		1,544,056	
営業費用		1,362,129	
	管渠費	501,145	管渠の維持管理に要する経費を計上
	業務費	46,259	使用料の徴収業務等に要する経費を計上
	総係費	39,613	下水道事業の総括的経費を計上
	水洗化促進費	270	水洗化促進に要する経費を計上
	減価償却費	770,990	固定資産の減価償却費を計上
	資産減耗費	3,852	固定資産除却費を計上
営業外費用		180,887	
	支払利息	178,967	企業債及び一時借入金の利子を計上
	雑支出	300	過誤納に伴う還付金等(過年度分)を計上
	消費税及び地方消費税	1,620	消費税及び地方消費税納税予定額を計上
特別損失		540	
	過年度損益修正損	540	過年度損益修正損を計上
予備費		500	
	予備費	500	

資 本 的 収 入 及 び 支 出

収 入

(単位:千円)

款 項	目	予 定 額	備 考
資 本 的 収 入		936,501	
企 業 債		777,100	
	企 業 債	777,100	下水道施設の建設に対する企業債の予定額を計上
国庫(県)補助金		89,970	
	国庫(県)補助金	89,970	下水道施設の建設に対する国庫補助金の予定額を計上
負 担 金		69,431	
	負 担 金	69,431	受益者負担金及び一般会計負担金等の予定額を計上

支 出

(単位:千円)

款 項	目	予 定 額	備 考
資 本 的 支 出		1,763,664	
建 設 改 良 費		1,015,083	
	建 設 総 係 費	80,533	下水道建設事業に要する事務費を計上
	公 共 下 水 道 建 設 事 業 費	489,574	公共下水道の建設に要する経費を計上
	特 定 環 境 保 全 公 共 下 水 道 建 設 事 業 費	385,682	特定環境保全公共下水道の建設に要する経費を計上
	流 域 下 水 道 事 業 費	57,794	流域下水道事業建設負担金を計上
	固 定 資 産 購 入 費	1,500	軽貨物車1台購入を計上
債 還 金		747,581	
	企 業 債 債 還 金	747,581	企業債元金の償還金を計上
予 備 費		1,000	
	予 備 費	1,000	